

新・新潟市水道事業中長期経営計画  
～ 新・マスタープラン ～

## 後期実施計画重点目標の達成状況

新・新潟市水道事業中長期経営計画 後期実施計画終了時における重点目標の達成状況評価【総括】

【指標項目 後期結果一覧】

		指標値の変動状況（中期実施計画（R2年度）との対比）		
		指標値が向上	指標値を維持	指標値が低下
目標達成状況	中期目標を達成	【安全】	【安全】 ・農薬濃度管理目標達成率	【安全】 ・貯水槽清掃実施率
		【強靱】 ・浄水施設耐震率 ・ポンプ所耐震施設率 ・配水池耐震施設率 ・（全体）管路耐震適合率 ・（基幹）管路耐震適合率	【強靱】 ・老朽化浄水施設率 ・（全体）老朽化管路率	【強靱】 ・老朽化設備率 ・（基幹）管路老朽化率
		【持続】 ・エネルギー原単位	【持続】 ・浄水発生土の有効利用率	【持続】
	中期目標を未達成	【安全】 ・学校施設水飲み水柱の直結給水化率	【安全】	【安全】 ・総トリハロメタン濃度管理目標達成率 ・残留塩素管理目標達成率 ・臭気強度管理目標達成率
		【強靱】 ・鉛給水管率 ・小ブロック構築率	【強靱】	【強靱】 ・（全体）管路更新率 ・（基幹）管路更新率
		【持続】 ・有収率 ・施設最大稼働率 ・再生可能エネルギー利用率 ・内部研修実施時間	【持続】	【持続】 ・施設利用率

新・新潟市水道事業中長期経営計画 後期実施計画終了時における重点目標の達成状況評価【詳細（1）（目指す方向性 安全）】

【指標値実績及び状況説明等】

重点目標項目	前期	中期	後期実施計画				後期平均	計画最終	後期評価		状況説明等
	H29	R2	R3	R4	R5	R6		目標(R6)	対R2	対目標	
1 農薬濃度管理目標達成率 (比の総和0.1以下の件数/年間検査件数)	100	100	100	100	100	100	100	100	維持	達成	浄水課と連携し、活性炭注入指針に基づいた活性炭注入を実施したことにより後期目標を達成しました。
2 総トリハロメタン濃度管理目標達成率 (総トリハロメタン濃度0.05mg/L以下の件数/年間検査件数)	100	100	100	100	99	100	99.8	100	低下	未達成	浄水課と連携し、活性炭注入指針に基づいた活性炭注入を実施しましたが、R5年度夏季は例年のない水温上昇が発生した地点があり、この地点において高水温の影響で総トリハロメタン濃度が上昇したため目標を達成できず、後期目標も達成できませんでした。
3 残留塩素管理目標達成率 (残留塩素濃度0.5mg/L以下の件数/年間検査件数)	92.0	89	90	89	88	88	88.8	92以上	低下	未達成	近年の夏季高温により、原水水温上昇に伴う残塩消費量の増加が観測されたため、浄水場送出し残塩濃度を高く設定しました。これにより、当初の見込みよりも残留塩素濃度が0.5mg/L以上となる地点が増加したため、後期目標が達成できませんでした。
4 臭気強度管理目標達成率 (臭気強度2以下の件数/基準全項目検査数)	100	100	100	100	100	98	99.5	100	低下	未達成	令和6年度の冬季に信濃川水系において例年のない一過性の強い臭気(植物臭)が確認され、青山浄水場系統において、浄水処理で落とすきれない臭気が水道水に残存したため後期目標が達成できませんでした。 なお、当該臭気の確認後速やかに粉末活性炭処理で対応しました。
5 学校施設水飲み水栓の直結給水化率 (直結化した学校数/市立の学校施設数)	65.7	66.1	66.7	66.3	66.1	67.3	-	67.8以上	向上	未達成	教育委員会との協議および情報共有を図り、直結給水化について協議を進め、新たに2施設で直結給水となりましたが、後期目標が達成できませんでした。
6 貯水槽清掃実施率 (貯水槽水道清掃実施件数/貯水槽水道総件数)	82.3	82.1	81.6	81.5	80.7	77.3	80.3	78.0以上	低下	達成	継続した委託実施により訪問・電話指導に努めた結果、小規模貯水槽水道では実施件数が減少傾向にあり令和6年度は目標目標が達成できませんでした。後期期間全体では目標を達成しました。

【経営審議会 評価】

農薬濃度管理、貯水槽清掃実施率は目標を達成している。マスタープラン2034でも確実に達成していただきたい。学校施設の水飲み水栓の直結給水化率については、指標値は向上しているものの目標値には達していない。教育委員会との協議・情報共有を行い、進捗を図る必要がある。総トリハロメタン濃度・残留塩素濃度については国の水質基準は満たしているものの、目標を達成できなかった。総トリハロメタン・残留塩素については、夏季の高温による水温上昇という止むを得ない原因によるものであるが、中長期的な気候変動への対応が必要と思われる。また、臭気強度管理についても一過性の臭気によって目標を達成できなかった。原因を解明の上、不測の事態にもある程度対応できる余裕があると望ましい。

## 新・新潟市水道事業中長期経営計画 後期実施計画終了時における重点目標の達成状況評価【詳細（２）（目指す方向性 強靱）】

### 【指標値実績及び状況説明等】

重点目標項目	前期	中期	後期実施計画				後期平均	計画最終 目標(R6)	後期評価		状況説明等
	H29	R2	R3	R4	R5	R6			対R2	対目標	
1 老朽化浄水施設率 (更新周期を超えた浄水施設能力/全浄水施設能力)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	維持	達成	更新周期を超えた施設がないため、指標値は0.0%を維持しています。後期目標を達成しました。
2 老朽化設備率 (更新周期を超えた電気・機械設備数/電気・機械設備の総数)	20.9	11.6	14.7	15.3	14.5	11.8	—	12.0 以下	低下	達成	青山浄水場、巻取水場の整備事業実施により後期目標を達成しました。
3 浄水施設耐震率 (1)カクリ構築物が耐震化されている浄水施設能力/全浄水施設能力(構内水管除く)	19.9	45.0	45.0	45.0	45.0	70.1	—	69.3 以上	向上	達成	青山浄水場の耐震化完了および施設整備による施設能力適正化により、後期目標を達成しました。
4 ポンプ所耐震施設率 (耐震対策の施されているポンプ所能力/全ポンプ所能力)	95.9	95.8	95.8	95.8	95.8	100	—	100	向上	達成	青山浄水場のポンプ所耐震化完了により後期目標を達成しました。
5 配水池耐震施設率 (耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量)	72.0	71.8	74.6	74.6	87.1	90.6	—	90.6 以上	向上	達成	計画に基づいた配水池の耐震化完了および施設能力の適正化に伴う青山浄水場配水池1～3号廃止により、後期目標を達成しました。
6 (全体) 管路更新率(期間平均) (管路更新延長/管路総延長)	0.45	0.39	0.40	0.38	0.38	0.30	0.37	0.43 以上	低下	未達成	老朽化管路の更新を着実に進めたものの、工事費高騰の影響で後期期間内平均は0.37%であり、後期目標は達成できませんでした。
			0.43以上								
7 (全体) 老朽化管路率 (更新周期を超えた管路延長/管路総延長)	4.0	3.7	3.6	3.5	3.7	3.7	—	3.9 以下	維持	達成	老朽化管路の更新を着実に進めたことで、後期目標を達成しました。
8 (全体) 管路耐震適合率 (耐震適合性のある管路延長/管路総延長)	68.1	69.4	68.6	70.2	70.6	70.9	—	70.8 以上	向上	達成	管路の耐震化を着実に進めたことで、後期目標を達成しました。
9 (基幹管路)更新率(期間平均) (基幹管路更新延長/基幹管路総延長)	1.08	1.16	0.98	0.93	1.11	0.16	0.8	1.03 以上	低下	未達成	一部路線で工程の遅延が発生したことで、後期期間内平均は0.8%であり、後期目標が達成できませんでした。
			1.03以上								
10 (基幹管路)老朽化率 (更新周期を超えた基幹管路延長/基幹管路総延長)	4.0	1.6	2.0	2.0	3.1	4.3	—	4.7 以下	低下	達成	老朽化基幹管路の更新を着実に進めたことで、後期目標を達成しました。
11 (基幹管路)耐震適合率 (耐震適合性のある基幹管路延長/基幹管路総延長)	62.4	66.7	67.9	69.0	70.3	70.5	—	70.1 以上	向上	達成	基幹管路の耐震化を着実に進めたことで、後期目標を達成しました。
12 鉛製給水管率 (道路上での鉛製給水管使用件数/給水管件数)	5.9	4.8	4.5	4.3	4.1	3.9	—	3.3 以下	向上	未達成	労務費や材料費等、工事費用の高騰に加え、鉛管密度の低減などもあり、更新件数が伸びず後期目標は達成できませんでした。
13 小ブロック構築率 (小ブロック構築完了数/小ブロック構築予定数)	81.5	85.9	87.4	87.4	88.9	89.6	—	90.4 以上	向上	未達成	基幹管路整備事業の進捗に伴い当初計画にない1ブロックを新たに構築しましたが、未構築となった2ブロックについては関連する他事業が進まず構築できなかったことにより、後期目標は達成できませんでした。

### 【経営審議会 評価】

施設の耐震化(浄水施設・ポンプ所・配水池・管路(全体)(基幹))はいずれも目標を達成している。ただし、未耐震化施設も残っていることから、マスタープラン2034でも引き続き着実に事業を進める必要がある。管路更新率(全体)(基幹)は目標未達成であった。工事費高騰が原因であり、今後もこの傾向が継続することを前提とした長期的な対応方針の策定が必要である。その他の未達成項目(小ブロック構築率、鉛給水管率)に関しても、事業効率に配慮しつつ着実に進めていただきたい。

新・新潟市水道事業中長期経営計画 後期実施計画終了時における重点目標の達成状況評価【詳細（3）（目指す方向性 持続）】

【指標値実績及び状況説明等】

重点目標項目	前期	中期	後期実施計画				後期平均	計画最終	後期評価		状況説明等
	H29	R2	R3	R4	R5	R6		目標(R6)	対R2	対目標	
1 有収率 (有収水量/年間配水量)	93.3	93.7	94.6	94.1	92.9	93.5	93.8	95.0 以上	向上	未達成	令和2年度に比して微増しましたが後期の目標は達成できませんでした。今後も水需要の動向に注視し、施設規模の適正化や漏水防止に努めます。
2 施設利用率 (一日平均配水量/全浄水施設能力)	64.1	65.6	64.4	63.9	63.1	69.8	65.3	67.9 以上	低下	未達成	令和6年度は一日平均配水量が当初の見込み以上となったことに加え、施設能力の適正化により後期目標を達成しましたが、後期期間の平均は後期目標を達成できませんでした。
3 施設最大稼働率 (一日最大配水量/全浄水施設能力)	86.3	73.9	71.7	90.9	71.9	75.1	77.4	77.6 以上	向上	未達成	R4年度の寒波で施設稼働率が後期目標値を上回りましたが、施設能力適正化を実施したものの、後期期間の平均は後期目標を達成できませんでした。
4 エネルギー原単位 (kl/m) (原油換算エネルギー使用量/年間配水量(万m <sup>3</sup> ))	0.8485	0.8559	0.5348	0.5770	0.5949	0.5663	0.5683	0.8824 以下	向上	達成	令和3年度からの自己託送制度利用による非化石エネルギー使用量割合増加のため、エネルギー原単位が減少しており、後期目標を達成した。(エネルギー原単位の計算は化石エネルギーの使用量を対象とする。)
5 再生可能エネルギー利用率 (再生可能エネルギー設備の電力使用量/全施設の電力使用量)	0.35	0.35	0.36	0.39	0.39	0.33	0.37	0.38 以上	向上	未達成	R6年度に信濃川浄水場太陽光発電設備の経年劣化により一部分発電設備を切り離したことで、再生可能エネルギー設備の電力使用量が減少したため、後期目標は達成できませんでした。
6 浄水発生土の有効利用率 (有効利用土量/浄水発生土量)	100	100	100	100	100	100	100	100	維持	達成	令和5年度から繰り越した満願寺浄水場の発生土(100Bq/kg超)の影響で、利用量が発生量を上回ったことにより後期目標を達成できませんでした。
7 内部研修実施時間(時間/人) (延べ年間研修時間/年度末職員数)	16.0	5.0	7.9	12.4	15.3	17.8	13.4	21.0 以上	向上	未達成	コロナ禍で減少した研修を、職員研修基本計画に基づき計画的に内部研修を実施するとともに、R6年度は能登半島地震の振り返り研修等の職場内OFF-JTを積極的に実施しました。これにより、研修時間が増加したものの後期目標は達成できませんでした。

【経営審議会 評価】

有収率、施設利用率および施設最大稼働率は前中期と比較して大きな変化はなく、目標未達成であった。長期的な人口動態・節水器具の普及を踏まえた水需要予測と施設規模・能力の適正化を進める必要がある。再生可能エネルギー利用率は目標未達成であり、関連する老朽化施設の更新を進め脱炭素化を図る必要がある。内部研修実施時間については、年々向上しているものの未達成である。人材育成は長期的な視点から重要であるため、今後も継続して技術力向上を図っていただきたい。また、量だけでなく質的な評価の導入も検討すべきである。